



UCI 世界選手権ロードレース U23 留目夕陽が大健闘！

8月3日から13日までイギリス（スコットランド）グラスゴーにて「[UCI サイクリング世界選手権](#)」が開催され、各カテゴリーで世界チャンピオンを決める伝統の一戦が繰り広げられました。ロードレースは、悪天候に加え、直角コーナーや石畳、急坂が入り混じる厳しい条件下のサーキットでしたが、EF エデュケーション・イージーポストは、イタリア代表として出走したアルベルト・ベッティオールが、終盤に単独で先行するなど勇気ある走りを見せ、チーム内最高位となる10位でフィニッシュ。優勝したのはオランダ代表のマチュー・ファンデルプールでした。

U23 カテゴリーは、唯一の日本代表として、EF エデュケーション・NIPPOの留目夕陽（EF エデュケーション・NIPPO）が出走。約180名の選手が出走し、半数以上がリタイアとなる過酷な展開となりましたが、留目はすでにプロとして活躍する有力選手たちを相手に、首位から4分54秒差の36位でフィニッシュ。UCI ポイントを獲得するとともに、確かな実力を発揮しました。



U23の留目夕陽は、個人タイムトライアルでは23位。アジアチャンピオンを大きく引き離す好成績でした。その後に参戦したロードレースでは、アタックが頻発し、ハイペースで進むなか40名ほどまでに絞られたメイン集団に残り、チームメイト不在の単騎参戦ながら、ベストを尽くして36位でフィニッシュしました。



19ヶ国、30選手が所属する
世界トップカテゴリーの
UCIワールドチーム。



激しい通り雨に見舞われた男子エリート・ロードレースの終盤、アルベルト・ベッティオールが残り55km地点から単独で先行し、逃げ切り優勝をめざしましたが、残り20km地点で優勝候補4名に吸収、10位でレースを終えました。



大勢の観客が詰めかけたスコットランド・グラスゴー市内のサーキット。



タイムトライアル・男女リレーではステファン・ビッセガー（中央）擁するスイスチームが優勝。虹が描かれた伝統のアルカンシェルジャージを獲得しました。

MORE INFO > <https://teamnippo.jp>